

放送大学「生涯学習支援番組」(2024年度第1回制作)の制作業務仕様書

1. 業務概要

放送大学学園(以下「学園」という。)のテレビ番組(以下「番組」という。)の構成・演出・収録・編集等の制作業務を行う。

本番組は、2024年度以降に放送予定のテレビ生涯学習支援番組である。

請負事業者は、学園が示す企画方針および計画に基づき、学園プロデューサー等と連絡・協議を行いつつ連携をとり、番組制作業務を遂行する。

2. 請負期間

別紙1のとおり

3. 制作する番組・本数・概算所要経費

別紙1~7のとおり

4. 番組制作業務の具体的内容、手順

1) 放送番組の演出

- ・出演講師、学園プロデューサー等と打合せによる内容原案を元に、演出方法及び内容を策定、実施

2) 内容検討・番組進行表の作成

- ・番組全体の構成案(項目、配列、時間、配分)策定
- ・映像・音声素材等の選定(ビデオ・写真・コメント等)
- ・出演者との内容・スケジュールの交渉(講師・ゲスト等)
- ・ロケーション先の選定、必要に応じた下見

3) ロケーション(国内)の実施と編集

- ・ロケーション(国内)に必要な要員の手配、機材の準備及びロケーションの実施
- ・出演者のヘアメイク及び衣装の手配
- ・ロケーション実施後の映像・音声の編集等、ポストプロ業務

4) 番組の素材資料の収集と作成

- ・動画・静止画・図版等の収集および作成。資料の収集にあたっては学園が推奨する素材(AFP)を優先的に選択する。なお、日本経済新聞社の著作物については使用を控えること(許諾条件の履行が困難であるため)。

5) 請負事業者による「放送大学学園著作物利用規程」に基づく権利処理(音楽等一部を除く)処理にあたっては、以下の点に留意のこと。

- ・学園が定める承諾書を出演者から受領すること。また、受領した承諾書はコピーを保管の上、原本は放送部放送管理課へ提出すること。
- ・番組出演者(学園の教員を除く)にかかる出演料、交通費等は、請負事業者が負担すること。
- ・上記4)の素材資料の放送(マルチ編成含む)等利用に関わる著作権等の調査、確認及び権利処理を行い、それに伴う費用は請負事業者が負担すること。
- ・放送(衛星、CATV等による同時再放送を含む)・インターネット配信(学園のウェブサイト上での一般向け公開。告知用動画においては、YouTube等外部ウェブサイト上での公開にも対応のこと)。

- ・学習センター等への DVD 配架等の番組の二次利用に関わる著作権等の調査、確認及び権利処理
- ・権利処理及び利用した素材（音楽及び上記 3）等に伴う出演者並びに上記 4）含む）等の記録報告を学園所定の書式（「著作権処理業務完了報告書」及び「楽曲使用報告書」）にて紙及び電子媒体で行うこと。

6) 美術セットの調達と操作

- ・大道具・小道具、生花木の調達及び操作

7) タイトル、テロップ・パターンの制作等

- ・タイトル、テロップ・パターンのデザイン及び制作
- ・CG・アニメーションの作成及び操作

番組の告知用動画の開始タイトル及び終了タイトルの表示方法は、別途学園プロデューサー等の指示に従うものとする。

8) 番組の試写

- ・学園プロデューサーによる完成前試写及び指示に応じた修正作業

9) 放送用台本の作成、印刷

- ・放送用台本の作成及び印刷

10) 音響効果

- ・番組に関わる選曲および効果音制作等

11) スタジオ収録及び収録時の副調整室及びフロアでの指揮

- ・スタジオ収録に関わる各種伝票処理
- ・出演者・技術スタッフとの収録打合せ
- ・ドライ、カメラリハーサル
- ・学園プロデューサー等の検査後、ディスク等引渡し

12) 広報用写真の作成

- ・画像例
 - ・番組タイトル画像
 - ・各出演者のバストショット画像
 - ・出演者全員が映っている画像
 - ・番組イメージの分かるグラフィック画像等
- ・画像サイズ1920×1080、画像形式は学園プロデューサーの指示に従う
- ・学園ウェブサイトでの掲載・ニュースリリース配信等のネット利用のための著作権処理を行っているもの

13) 後処理、手直し等

- ・資料の整理
- ・伝票の整理
- ・番組制作に使用した素材テープ等の入庫整理
- ・納品後、番組の手直しについて、請負事業者の責めに帰すべき理由によるものは、請負代金に含むものとする。

14) 上記各項目の業務遂行のために必要な打合せ参加

5. 番組制作業務に必要と想定される職種及び人数

請負事業者は、学園プロデューサーと協議のうえ、当該業務を適切に遂行できるよう各業務内容に応じ必要な専門知識を有する者を手配するものとする。

6. 学園施設・機器等

- 1) 収録は学園のテレビスタジオを使用することができる。その場合、収録に係わる業務に必要な技術要員は、学園で措置する。
- 2) 完成素材収録用 XDCAM メディア、スタジオ収録用 XDCAM メディア、番組考査試写用 DVD-R、番組編成業務用 DVD-R は必要な数を貸与する。
- 3) 請負事業者が手配・調達するものは以下の通り。
 - 学園スタジオでの収録時に必要な要員（技術要員を除く）○ロケ（要員および機材）
 - オフライン編集（要員および機材）○音響効果（要員および機材）○スタジオ大道具・小道具、道具操作
 - メイク ○衣装(スタイリスト)
- 4) 上記に含まれないものについては学園と請負事業者が協議の上で決定する。

7. 記録媒体等

学園が使用する記録媒体は XDCAM メディアであり、記録媒体の学園外への持ち出し及び学園への持ち込みについては、全て XDCAM メディアで対応すること。

8. 学園への納入物品の取扱い

次の完成物を番組の種別ごとに記載された数量を履行期限までに①～④を制作部へ、⑤～⑨を放送部放送管理課へ納入し、学園職員による検査を受ける。なお、納入物品は**学園技術フォーマット**（別添の「テレビ制作技術基準」を参照）に準拠すること。

	生涯学習支援番組 (1番組あたり)	告知用動画 (1番組あたり)
① 放送用本番素材記録XDCAMメディア	1本	1本
② クリーンピクチャー収録XDCAMメディア	1本	1本
③ 番組考査試写用DVD-R	1本	1本
④ 番組内容確認用DVD-R	1本	—
⑤ 放送用台本電子媒体	1式	—
⑥ 広報用写真電子媒体	1式	1式
⑦ 著作権処理業務完了報告書※ (紙及び電子媒体)	1式	1式
⑧ 楽曲使用報告書(紙及び電子媒体)※	1式	1式
⑨ 出演者から受領した承諾書の 原本 ※ (「4. 番組制作業務の具体的内容、手順」の5)を参照のこと)。	1式	

※学園所定の書式で提出すること。

9. 番組制作業務完了の報告

請負事業者は、業務完了後「番組制作業務完了報告書」を放送部放送管理課に提出すること。

10. 請負代金の請求・支払

請負事業者は、8及び9の検査に合格したときは、請負代金を学園に請求する。
学園は、適法な請求書受理後、40日以内に財務部経理課から支払うものとする。

11. 著作権の帰属等

- 1) 制作した番組（放送用利用分以外の番組収録素材を含む）に関する著作権（著作権法第27条及び第28条に規定する権利を含む。）は学園に帰属する。
- 2) 番組は、学園の著作名義で公表する。
なお、制作協力等の表示は、学園の基準によるものとする。
- 3) 学園は、番組等及び関連素材を必要により改変して使用することができる。
- 4) 上記各項目は、許諾を得た第三者の権利の帰属に影響を及ぼさない。

12. 業務内容の変更等

- 1) 本仕様書に規定する事項は、別の定めがある場合を除き、請負事業者の責任において履行するものとする。
- 2) 予期することができない状態の発生など、業務内容を変更せざるを得ない場合には、学園と請負事業者が協議の上で、業務内容を変更することができる。
- 3) 業務内容が変更された場合には、請負代金についても協議の上、変更することができる。

13. 安全の確保

- 1) 請負事業者は、業務の実施にあたり、請負事業者の従業員を直接指揮命令する者（以下、「現場責任者」という。）を必要に応じて1名以上選任し、任務に当たらせるものとする。
- 2) 現場責任者は、業務の実施の過程における安全対策について、請負事業者の従業員およびその指揮下にある全てのスタッフの安全確保に十分取り組むとともに、徹底を図る。

14. 業務の再委託等

- 1) 請負事業者は、業務の実施にあたり、業務の全部について、一括して第三者に請負わせたり、一括して第三者に再委託してはならない。
- 2) 業務の一部を第三者に対して、請負わせたり、再委託する場合、請負事業者は、あらかじめ、所定の事項について、学園に申請した上で、承認を得なければならない。

テレビ制作技術基準

別添

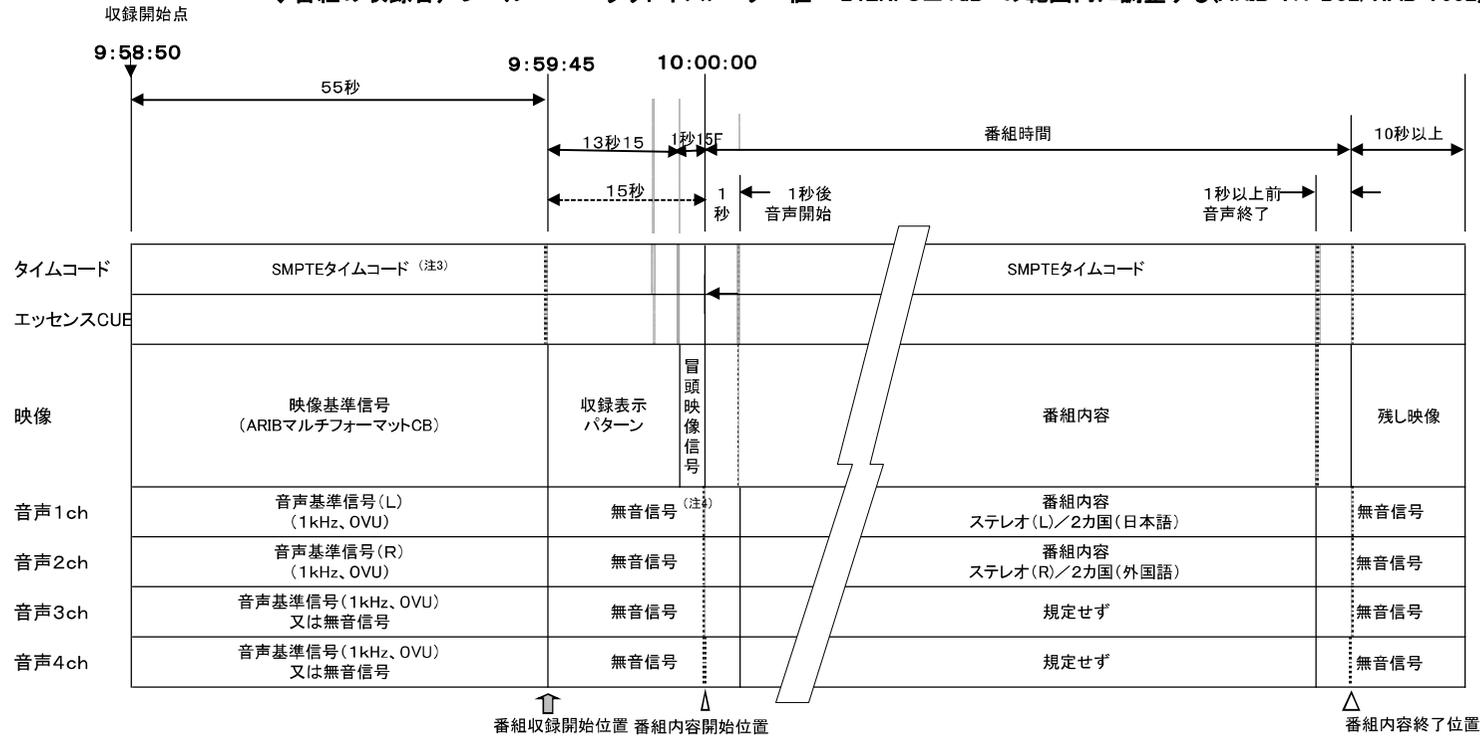
XDCAM-HDディスク放送用収録フォーマット

令和3年4月1日

◇映像:MPEG2 422P@50Mbps ◇音声:LPCM 48kHz 24bit 8ch ステレオ

◇MXFオペレーションパターン OP1a

◇番組の収録音声レベル ・ラウドネスメーター値 -24LKFS±1dB の範囲内に調整する(ARIB TR-B32/NAB T032)



* 予備SB(ステーションブレイク)は、1枚のディスクに複数本収録するが、それぞれが独立したファイルに1クリップで標準フォーマット収録する。

* 送出サーバー登録時、09:59:58:00からファイリングするため表示パターンを09:59:58:15まで記録する。

- 注1: ARIBマルチフォーマットカラーバーは「ARIB STD-B28」に準拠すること。
- 2: 音声基準信号は、OVU=基準量子化値(フルビットから20dB下がった値 -20dBFS)とする。
- 3: タイムコードトラックには、収録開始位置から連続したSMPTEタイムコードを記録すること。
- 4: 無音信号とは入力信号を絞りきった(無音の)音声信号が記録された状態をいう。
- 5: 番組試写終了後、TDまたは担当者がラウドネスメーター値を番組収録連絡票に記入すること。
- 6: デジタル音声のプリエンファシスは使用しないこと。
- 7: ディスクごとに「ワンクリップ」収録とすること。
- 8: 末尾のフィラー音楽開始については、1秒以上音声の空白を挿入すること。

別添

外部制作での完プロ制作における編集ソフトの考慮すべき項目

制作番組の完成品（完プロ番組）を放送大学学園に納入の際は、サーバ登録、送出、制作の観点から、下記の編集ソフトウェアを使用すること。

1. エディウス（GrassValley EDIUS）
2. プラナス（PRUNUS）
3. アビッドメディアコンポージャー（Avid Media Composer）

※書き出し時のエンコーダは「Avid Media 4.4.」を使用すること

4. ブラックマジックデザイン（Davinci Resolve+Main Concept）

なお、上記以外の編集ソフトウェアを使用する場合は、必ず、XDCAM ディスクにベースバンド収録して完成品とすること。

以上によらない場合は、あらかじめ学園の承諾を得ること。

制作する番組・本数・概算所要経費・請負期間

1. 生涯学習支援番組 6番組

No.	分類	題目名	放送（ネット配信含む）期間	概算所要経費（税込）	請負期間
1	BS キャンパス ex 特集	人生 110 年時代を目指す ～筋力トレーニングの生理学と自宅でできる実践法～ (45 分×2 本)	2 年 20 回	3,861 千円	契約締結日～ 令和 7 年 2 月 28 日
2	BS キャンパス ex 特集	考古・歴史・文化の今昔：蘇る「兼高かおる世界の旅」と共に～ブラジル編～ (45 分×2 本)	4 年 40 回	2,563 千円	契約締結日～ 令和 7 年 2 月 28 日
3	BS キャンパス ex 特集	古文書を訪ねる旅 ～新潟県立歴史博物館所蔵「越後文書宝翰集」～ (45 分×1 本)	2 年 20 回	1,864.5 千円	契約締結日～ 令和 7 年 2 月 28 日
4	数理・データサイエンス・AI	言語生成 AI の機能と社会への応用 (45 分×2 本)	3 年 20 回	2,728 千円	契約締結日～ 令和 6 年 12 月 27 日
5	BS キャンパス ex 特集	自分の学習を設計する（仮） (45 分×1 本)	2 年 20 回	1,573 千円	契約締結日～ 令和 7 年 2 月 28 日
6	スペシャル講演	スペシャル講演 (45 分×1 本)	2 年 20 回	1,182.5 千円	契約締結日～ 令和 7 年 2 月 28 日

2. 告知用動画（放送やネット配信等で利用する 1 分間の告知用動画） 6番組

No.	題目名	本数	概算所要経費（税込）
1	人生 110 年時代を目指す ～筋力トレーニングの生理学と自宅でできる実践法～	2 本	上記 1 に含む
2	考古・歴史・文化の今昔：蘇る「兼高かおる世界の旅」と共に～ブラジル編～	2 本	上記 1 に含む
3	古文書を訪ねる旅 ～新潟県立歴史博物館所蔵「越後文書宝翰集」～	1 本	上記 1 に含む
4	言語生成 AI の機能と社会への応用	2 本	上記 1 に含む
5	自分の学習を設計する（仮）	1 本	上記 1 に含む
6	スペシャル講演	1 本	上記 1 に含む

※出演者は現時点の予定であり、変更の可能性がある。
出演予定者に内容等問い合わせを行うことは厳禁とする。

制作する番組・本数・概算所要経費

担当プロデューサー、ディレクター

制作部 足立圭介

1) 番組名(グループ名) BSキャンパスex特集	2) 個別番組タイトル 人生 110 年時代を目指す ～筋力トレーニングの生理学と自宅で できる実践法～
3) 放送回数、期間、マルチ展開など 2024 年秋以降(2 年 20 回)	4) 番組尺、本数 45 分×2 本
5) 内容等 a. 目的・ねらい <p>わが国の 100 歳以上人口は 9 万人を越え、いまや人生 100 年時代と言われるようになった。しかしながら、健康上の問題で日常生活が制限されることなく過ごせる期間である健康寿命と平均寿命には 10 年程度の開きがあり、この「健康でない期間」をいかに減らすかが大きな課題となっている。</p> <p>健康寿命を伸ばすための重要な取り組みとして挙げられているのが、活発な身体活動を行って身体機能や運動能力を維持することである。筋肉は適応能力の高い組織であり、運動刺激によって肥大し筋力が増強される。この筋肉の適応能力は高齢になっても維持されることが知られており、たとえば筋肉に抵抗を加えるレジスタンストレーニング、いわゆる筋トレと呼ばれる筋力トレーニングは、適切に実施することで 80-90 歳代であっても大きな筋肥大効果もたらすことが報告されている。また、3 か月ほどの筋トレの実施で大腿の筋肉が 10%程度肥大したとする報告もあり、これは加齢変化に換算すると 10 歳分程度の若返りに相当することになる。このように、加齢で萎縮が進む筋肉に対し、適切な筋トレを実施することによってそれを食い止め、さらには発達させることができることから、筋トレを行わないことはとても「もったいない」ことといえるだろう。</p> <p>このように抗加齢ともいえる効果が期待できる筋トレだが、やみくもに重いものを上げ下げすれば良いわけではない。適切な運動刺激により筋肉の適応反応を引き起こすためには、生理学的な仕組みに基づいた効果的で安全な筋トレ法が必要であり、「“筋肉は裏切らない” かどうかはやり方次第」である。</p> <p>そこで本番組では、「筋肉体操」で知られる順天堂大学の谷本道哉先任准教授に出演していただき、生理学に基づく講義と実演を組み合わせ提供することで、知識のみならず実践にも結びつく情報提供の場としたいと考える。40 代以上が 2/3 を占める本学の学生にとって健康問題は関心が高いトピックであり、多くの視聴が期待できる。また、先に述べたとおり健康問題が課題となっているわが国の国民に対しても、谷本先生の出演と合わせ、広く関心を引くものとなるだろう。身近な日常生活動作の機能改善に焦点を当てるとともに、道具を使わず日常生活に取り入れやすい内容を意識して広く国民に勧められる筋トレ法を紹介することで、人生 110 年時代を目指せる番組にしたい。</p>	

b. 内容・構成

以下の4つの内容について、計2回にわたり順天堂大学の谷本道哉先任准教授が解説、実演を行い、専任教員の関根がナビゲータを務める。知識や実践に偏らず、両者をバランス良く身につけることを重視し、人生110年時代を本気で目指す、そのための一歩となる番組作りとしたい。

1-1 筋肥大・筋力増強を促す生理的メカニズム

講義を中心に適宜デモンストレーションを挟み、専門的な内容を平易な言葉に置き換えて視聴者の理解を促す。筋肉の基本性能はそのサイズに強く依存する。筋肥大を誘発する運動刺激は、大きな筋張力を与える「力学的刺激」と、筋肉内の代謝物の蓄積を促す「化学的刺激」の2つに大別でき、筋トレはこの2つの刺激を効率よく与える作業と捉えるとその方法論を理解しやすい。筋トレでこの2つの刺激を効率よく与えるための工夫、ポイントを順に解説する。代表的なものとして以下に3つ挙げる。

1. フルレンジ

大きな動作範囲で行う。筋肉が大きく伸長する位置での動作は微細損傷を強く誘発する。

2. ノンロックスロー

ややゆっくりとした速度での持続的な筋力発揮により、筋内圧が高い状態が維持される。これによる血流制限は筋肉内の酸素環境および代謝環境を過酷にする。

3. オールアウト

反復限界まで動作を繰り返すことで、加齢の影響を受けやすい速筋線維を十分に動員することができる。筋トレは局所的な運動であるため、反復限界まで行っても全身的な疲労はそれほど高くない。

1-2 安全に実施する上での注意点

筋トレ実施による身体への過度な負荷には十分な配慮が必要である。高負荷での筋トレは関節や動脈血管系機能に障害を生じる可能性があり、筋トレの実施により動脈伸展性が低下したとする研究報告もある。筋トレの実施は総死亡率や心疾患、がん等の罹患リスクを低下させるが、その量反応関係はJカーブを描き、やりすぎによる弊害が生じることを、講義を中心に解説する。

1-3 筋トレ実践編

自宅で実践できる筋力トレーニングを紹介し、視聴者が一緒に行えるように実践する。体を支える下半身の基本種目であるスクワット、立位・座位姿勢での姿勢維持に関わる背筋群を鍛えるバックエクステンション、起き上がりと脚の振り出しにかかわる腹筋群と腸腰筋を鍛えるレッグレイズ、手をつけて体を支える上肢の伸展筋を鍛えるテーブル腕立てふせ、の「基本の4種目」を軸に、いくつかの種目を紹介する。また、日常生活や街中でも実践できるような方法の提案も行う。誰もが当たり前のように街中での筋トレを実践できる社会を目指したい。

1-4 その他補足情報

食事方法、サプリメント、飲酒や筋トレ実践の時間帯など、筋肉づくりに役立つ豆知識をプチコーナーとして番組各所で紹介する。専任教員の面接授業「運動と筋の生理学」では、食事やサプリメント、運動実施のタイミングなどに関する質問が最も多く、それら学生の素朴な疑問に答えることができるコーナーとしたい。

c. 取材対象	ロケ取材 : 有 千葉県印西市平賀学園台 順天堂大学
d. 出演者など (※キャリアアップ支援認証制度を希望する場合は、担当講師及び客員教員発令の有無も記載)	谷本道哉 (順天堂大学先任准教授), 関根紀子 (放送大学教授), ゲスト (未定)
6) 主体性の確保	専任教員の関根が谷本先任准教授と綿密に連絡を取りながら全体の構成と内容の設計と準備に関わり、放送大学の主体性を確保する。また、番組では関根が要所要所でナビゲータを務める。
7) 制作予定期間	契約締結日～令和7年2月28日
8) 演出上の特記事項	解説用 CG パターン複数枚
9) 字幕制作希望	有

※出演者は現時点の予定であり、変更の可能性がある。
出演予定者に内容等問い合わせを行うことは厳禁とする。

制作する番組・本数・概算所要経費

担当プロデューサー、ディレクター
制作部 足立圭介

1) 番組名(グループ名) BSキャンパスex特集	2) 個別番組タイトル 考古・歴史・文化の今昔：蘇る「兼高かおる世界の旅」と共に～ブラジル編～
3) 放送回数、期間、マルチ展開など 4年40回	4) 番組尺、本数 45分 × 2本
<p>5) 内容等</p> <p>a. 目的・ねらい</p> <p>希少映像の活用</p> <p>本企画で活用する過去の番組映像は、1959年から1990年まで続いた「兼高かおる世界の旅」である。同番組は、日本人に世界への関心と知識を大きく広げたものであり、世界の民族文化、考古遺跡、史跡、自然環境などの学術的文化的にも貴重な映像を多く遺している。世界の諸民族の暮らしと文化は近代化、観光化等によって急激に変化しており、過去の映像の希少性が増している。</p> <p>映像の著作権使用料は、1本(20分程度)につき33万円であるが、NHKその他の素材の価格と比較して単価が割安である。現状の映像はフィルムで保管されているが、兼高かおる基金が、デジタル化して放送大学に提供する。また、番組中の芥川隆行氏の音声の著作権をその遺族が所有しているが、その著作権についても基金が責任をもって処理を行う。</p> <p>すでに制作・放映しているペルー編(2本)、メキシコ編(4本)、および、今年度制作中のネパール編(2本)と同様に、研究者が所持する多くの画像・映像は、無償で放送大学に提供される。製作費は平均より低く抑えることができ、本番組の費用対効果は大きい。</p> <p>知的関心と学術的価値の拡大・発信、講義化による収入増</p> <p>本企画では、「兼高かおる世界の旅」番組映像(以後KK番組映像)から特に価値のあるものを選別し、その映像を再活用し蘇らせるとともに、研究者が現地で撮影した新たな画像・映像を加え、最新の学術的知見を付加する。その組み合わせの相乗効果により、広く一般の視聴者に学術・文化等への興味を沸き立たせる内容とする。視聴者は、映像を楽しみながら、考古・歴史・文化を学び、知的好奇心をかきたてられ、文化人類学、博物館学、その他の関連する科目への誘いとなる。</p> <p>海外ロケが十分に行えない現状において、過去の希少・貴重な海外取材の映像の活用は意義が大きく、また、とくに中高年層にとって知名度の高いKK番組映像の活用により、生涯学習支援番組の認知度・視聴率の向上にも資する。</p> <p>また、ペルー編(2本)、メキシコ編(4本)と合わせることにより、『中南米の考古・歴史・文化』などの講義化によって収入を得られる可能性が高い。</p>	

b. 内容・構成

KK 番組映像から、ブラジル（2編）を取り上げ紹介する。いずれも、1986年に撮影された、貴重・希少な映像記録であり、長期の時間軸をもつ学術的なプログラムを構成することができる。本番組によって、過去の映像を踏まえたうえで、新たな画像・映像とともに、最新の学術的知見によってブラジルの歴史・文化・社会を多角的な視点から理解することができる。視聴者は、文化人類学的知見のみならず、幅広い教養を身につけ、世界への関心を広げ、大きな満足感を得ることができる。大航海時代の中南米史、三角貿易、奴隷制やディアスポラ、移民問題を考えるうえでも極めて重要であり、前編（メキシコ、ペルー）とあわせると、中南米の考古・歴史・文化を包括的に概観することができる。

具体的な内容・構成は以下のとおりである。

1) ブラジル編Ⅰ：KK 番組映像「気分は神様」（1986年4月取材撮影）では、サルバドール（旧首都、第4の都市）、ペロウリーニョ広場（奴隷を売買した広場）、サンフランシスコ教会（金ぴかの祭壇）、湾の海岸沿いの岬の教会、丘の上の砲台、ボンフィン教会の（民間信仰、病気治療などのための）お供えの体の部位の模型、体の部位模型を売る店（民間信仰）、サンタナ（サルバドールの西 約 100 km）におけるカーニバル、カンドンブレ（アフリカ由来の宗教儀礼）などが紹介されている。

制作する本編では、上記の映像を踏まえながら、先住民文化、ポルトガルによる征服・植民、奴隷貿易などのブラジルの歴史、文化変容・社会変容の結果としての、現在のファベラの現状、カトリック信仰とカーニバル、アフリカ由来の信仰などを、学術的研究成果を基に、最新の映像・画像も多用することで、具体的にわかりやすく学ぶ。

2) ブラジル編Ⅱ：KK 番組映像「アマゾン 50 年」（1986年5月取材）では、アマゾン川下り、ウルカラ港やバリンティス港の風土・景観などによりアマゾン地域の特徴を紹介したうえで、日本人の移民の足跡として、日本高等拓殖学校開校 50 周年記念広場、日本人入植地域「ヴィラ・アマゾナス」の病院廃屋、集会所廃屋が紹介され、日本人移民が始めたジュートの生産作業として、その刈り取り、皮むき、ジュート工場の船着き場と作業工程（より分け、切り捨て、圧搾、印付けなど）が紹介されている。

制作する本編では、上記の映像を踏まえながら、（先住民社会とその変容を含めた）アマゾン地域の特徴、日本人移民の歴史と現在の日系人社会等について、学術的研究成果に基づき、最新の映像・画像も多用することで、具体的にわかりやすく学ぶ。

稲村は、長年にわたり中南米の研究を行っており、ブラジルでも科学研究費による現地調査を行っている。また、出演依頼を予定している池谷（国立民族学博物館教授、文化人類学）はアマゾン地域での現地調査の経験が豊富であり、小貫（東海大学、教育学）はブラジル在住歴が長く、都市部、とくにファベラでの人々の生活、日本人移民の歴史や社会についても精通している。この3名は、KK 番組の内容に対比することができる画像や映像も多く所蔵している。

c. 取材対象 ロケ取材 ： 国立民族学博物館

スタジオでの1日の収録を想定している。

d. 出演者など（※キャリアアップ支援認証制度を希望する場合は、担当講師及び客員教員発令の有無も記載）

稲村哲也（放送大学名誉教授、文化人類学、博物館学）、池谷和信（国立民族学博物館教授、文化人類学）、小貫大輔（東海大学教授、教育学）

6) 主体性の確保

稲村が中心となって企画し、アマゾン地域の研究に従事している池谷（文化人類学、狩猟採集文化研究）、ブラジル滞在歴が長く、ファベラでの教育や日本人移民に造詣が深い小貫らの知見生かし、主体性・オリジナリティの豊かな番組を制作する。なお、「兼高かおる世界の旅」は各番組 22 分程度である

が、本企画では、各回とも、そのうちの不要部分を除く 18～20 分程度を使用し、残りの尺（23～24 分程度）は、独自の画像・映像も駆使し、最新の学術的知見に基づいた構成とする。

7) 制作予定期間 契約締結日 ～ 令和 7 年 2 月 28 日

8) 演出上の特記事項 なし

9) 字幕制作希望 無

※出演者は現時点の予定であり、変更の可能性がある。
出演予定者に内容等問い合わせを行うことは厳禁とする。

制作する番組・本数・概算所要経費

担当プロデューサー、ディレクター

制作部 足立圭介

1) 番組名(グループ名) BSキャンパスex特集	2) 個別番組タイトル 古文書を訪ねる旅～新潟県立歴史博物館所蔵「越後文書宝翰集」～
3) 放送回数、期間、マルチ展開など 2年20回	4) 番組尺、本数 45分 × 1本
<p>5) 内容等</p> <p>a. 目的・ねらい</p> <p>史料に基づいて歴史を考えるのが学問としての歴史学。史料を読む、あるいは「見る」楽しみを映像を通して伝えたい。古文書の紙面をまず眺める。文字を読む前に眺める。眺めることで何がわかるか。その次に文字を読んでみる。文字を読むポイントは何か？古文書を読むというときずし字を読む難しさばかりがいわれるが、それは読める人の驕り。そもそも人に読んでもらうために書かれた文字なのだから、書いた人の身になればそれほどむずかしいわけではない。文字を読むことが意外に簡単であることを伝える。そして文字に書かれている内容。数百年前に何があったのか。それを文字の背後にまで思いを寄せて読み解く。古文書に書かれた事件の舞台をも訪ねて、古文書を読む楽しみを一層深める。</p> <p>b. 内容・構成</p> <p>新潟県立歴史博物館の所蔵する「越後文書宝翰集」を取り上げる。かつて中世越後で活躍した武士の家に伝来した文書であるが、越後の武士は戦国時代に上杉謙信に臣従し、その養子景勝が会津を経て米沢に転封されたのに従った。そのため内容は越後に関わるものであるけれども、米沢に伝来した。それが長岡市出身の実業家反町十郎の蒐集するところとなり、2005年に新潟県立歴史博物館の所有となった。その後、新潟大学と新潟県立歴史博物館の連携により、「越後文書宝翰集」を図録化して公開する事業が進められている。</p> <p>番組では、新潟県立歴史博物館を訪ね、主任研究員前嶋敏氏や新潟大学名誉教授矢田俊文氏にインタビューし、現物を紹介していただきながら、「越後文書宝翰集」に収められた古文書の数百年に及ぶ数奇な歴史をたどる。</p> <p>「越後文書宝翰集」には多くの武士の家の文書が収められているが、そのなかで和田義盛の弟の子孫に伝わった「三浦和田氏文書」に注目する。三浦和田氏は越後阿賀北地域、現在の新潟県胎内市に相当する地域に所在した奥山庄の地頭。隣接する荒河保の地頭河村氏との間で境界争いを起こすが、1292年に和解し、和解書を作成して幕府の認可を得ている。その際、奥山庄と荒河保の境界に関する絵図も作成されている。和解書(和与状)・認可書(裁許状)・絵図をじっくり読み解き、古文書を眺めるポイント、文字を読み解く愉しみを伝える。</p> <p>和解書(和与状)には係争当事者双方すなわち荒河保一分地頭河村秀通・同秀国等代僧明俊と奥山庄一分地頭和田茂長代殖野教房、それに荒河保司弾正忠職直が署名しており、裏面には「今後の証拠とするために署名する」という文言とともに沙弥と左衛門尉が署名している。この裏書・署名は認可書(裁許状)の交付と同時に加えられたと思われ、沙弥・左衛門尉はこの案件を担当した幕府の奉行人であると思われる。絵図の裏には桑江村地頭代田使有基・上土河地頭藤原忠基・保司弾正忠職直が署名してい</p>	

る。絵図作成の当事者であろう。加江村は奥山庄側、上土河は荒河保側である。和解書（和与状）と絵図の双方に署名している弾正忠職直は係争当事者双方から中立の証人であろうか。また絵図の表には境界を示す朱線が引かれ、朱線の両側に執権北条貞時と連署大仏宣時が花押（サイン）を書いている。この絵図が和解書（和与状）とともに幕府に提出され、執権・連署の署名による認可書（裁許状）が交付されるとともに、絵図の肝心の朱線を執権・連署が確認したことを示す花押（サイン）が加えられたのであろう。認可書（裁許状）の最初の3行は一字下げて書かれているが、これは公文書の標題に相当する部分で、「事」で書き止めることを原則とするために「事書」と呼んでいる。その事書の一行目の下の方、当事者の一方の名前「河村余五秀通」の「五」の部分が擦り消して書き直された痕跡があり、その裏を見ると花押が記されており、和解書（和与状）の裏書に署名した沙弥の花押と一致する。この案件を担当した沙弥が、認可書（裁許状）の文字の訂正部分に訂正を確認する花押を加えたことがわかる。

これらは、古文書の本文を読み取ることとは別に、古文書の現物を観察することからわかることである。新潟大学と新潟県立歴史博物館の連携により刊行された図録では指摘されていることであるが、これらの例を通して、図録化にあたって苦心された点をうかがう。また博物館で古文書の展示を見る際、その場で文字を読んでいくのはしんどいから、どこに注目して見ればいいのか（同行者に感心させるポイントがどこか）を伝えたい。

c. 取材対象 ロケ取材 : 有

新潟県立歴史博物館 前嶋敏主任研究員・矢田俊文新潟大学名誉教授

d. 出演者など（※キャリアアップ支援認証制度を希望する場合は、担当講師及び客員教員発令の有無も記載）

近藤成一（前嶋氏、矢田氏はロケ先でのインタビュー対象）

6) 主体性の確保

基本的に放送大学教員が解説を行うとともに、全体の構成台本を（インタビュー内容を除く）作成することによって、放送大学の主体性を担保する。

7) 制作予定期間

契約締結日 ～令和7年2月28日

8) 演出上の特記事項

なし

9) 字幕制作希望

無

※出演者は現時点の予定であり、変更の可能性がある。
出演予定者に内容等問い合わせを行うことは厳禁とする。

制作する番組・本数・概算所要経費

担当プロデューサー、ディレクター
制作部 足立圭介

1) 番組名(グループ名) 数理・データサイエンス・AI	2) 個別番組タイトル 言語生成 AI の機能と社会への応用
3) 放送回数、期間、マルチ展開など 3年20回 オンライン授業でコンテンツを活用する	4) 番組尺、本数 45分×2本
<p>5) 内容等</p> <p>a. 目的・ねらい</p> <p>文章要約、キャッチコピーや見出しの考案、議論の壁打ち、議事録作成、メール自動返信などの業務を支援できる「言語生成 AI」に対して、ビジネスパーソンから一般人まで、多くの国民が急速に関心を寄せている。しかしながら、今のところ、言語生成 AI は事実検索や数式で解く文章問題など、不得手な問題もあり、ハルシネーション（誤答）や機密情報漏洩などのリスクも抱えていることから、言語生成 AI の適切な利用方法の普及が求められている。そこで、生成 AI の利点からリスクまでを俯瞰する最新情報を提供し解説する番組を制作し、言語生成 AI として普及している ChatGPT の利用方法を習得することを目指す（公益性）。同時に、生成 AI の利用方法を確認するための複数の演習教材を、現行のラジオ授業「AI システムと人・社会との関係」の内容を引き継ぎ、文科省による数理・データサイエンス・AI 認定を取り消されないように、オンライン授業を開講するにあたり、授業の中の教材として活用する（経済性）。</p>	
<p>b. 内容・構成</p> <p>概要：ChatGPT の基本原理と利用方法を習得することを目指す。詳細は以下のとおり。</p> <p>1. (1 回目の概要)</p> <p>2018 年頃から開発が始まった言語生成 AI (ChatGPT 等) について、入力データ、DNN(ディープニューラルネットワーク)の構造パラメータなどの観点から解説した後、ChatGPT が利用している GPT3.5 が、事前学習と転移学習と強化学習という 3 種類の機械学習の連携により構成されていることを説明する。また、ChatGPT の機能として、文章要約、キャッチコピーや見出しの考案、議論の壁打ち、議事録作成、メール自動返信などの機能について説明するとともに、事実検索、数式が絡む文章題、複数回の演繹推論（三段論法）を適用する問題などは不得意であることを ChatGPT の実行例を交えながら示す。</p> <p>2. (2 回目の概要)</p> <p>ChatGPT の性能について、人と比較した性能比較を中心に説明し、我が国における、自治体・教育機関・企業での ChatGPT の利用状況について解説する。また、ChatGPT に漠然とした質問・指示を与えても、有用な回答は生成されない。的を絞った具体的な質問を与えることが重要であることを ChatGPT の実行例を交えながら示す。一方、世界各国で生成 AI に対する規制の動きが活発化しており、倫理的なガイドラインや法的なフレームワークが整備されつつある。言語生成 AI (ChatGPT 等) は非常に有用なツールであるが、質問の仕方や生成 AI の限界を理解し、倫理的側面にも留意することが大切であることを述べる。最後に、言語生成 AI の最新の動向と今後の方向についても触れる。</p> <p>各回とも、3つのパートに分けて収録を行い、オンライン授業の教育コンテンツとして活用する。</p>	

c. 取材対象	ロケ取材 : 無 など
d. 出演者など (※キャリアアップ支援認証制度を希望する場合は、担当講師及び客員教員発令の有無も記載)	担当講師 : 山口高平 (神奈川大学情報学部教授)
6) 主体性の確保	企画, 準備などは情報コースの中谷多哉子が行い, 情報コースで教材構成, 活用などの協力体制をとる.
7) 制作予定期間	契約締結日 ~ 令和6年12月27日
8) 演出上の特記事項	なし
9) 字幕制作希望	無

※出演者は現時点の予定であり、変更の可能性がある。
出演予定者に内容等問い合わせを行うことは厳禁とする。

制作する番組・本数・概算所要経費

担当プロデューサー、ディレクター
制作部 足立圭介

1) 番組名(グループ名) BSキャンパスex特集	2) 個別番組タイトル 自分の学習を設計する (仮)
3) 放送回数、期間、マルチ展開など 2年20回	4) 番組尺、本数 45分×1本
<p>5) 内容等</p> <p>a. 目的・ねらい</p> <p>放送大学は、幅広い年齢や職種の学生の生涯教育を支えることを使命としている。この番組は、学習を支援するために、視聴者が自らの学びを設計し、効果的かつ効率的に行えるスキルを身につけることを目標としている。具体的には、基本的な学習デザインの知識を提供し、それを応用するための具体的な例を通じて、視聴者が自分自身の学習を計画し、進める手法を習得することを目指す。</p> <p>【企画提案の背景と制作の必要性:】</p> <p>現代社会では、急速な技術の進化や社会の変化に対応するために、生涯学習がますます重要となっている。学習の設計にはインストラクショナルデザインという専門領域があるが、一般に知られているとは言えない。「どのようにして自分の学びを設計し、効果的に進めるか。」これは生涯学習において重要な観点であるにもかかわらず、このことに関する知識が多くの人には不足している現状がある。生涯学習のための様々なコンテンツを提供する放送大学が、「学び方」についてのスキルをわかりやすく解説・提供することは必要性が極めて高い。</p> <p>【番組の意義:】</p> <p>本番組が提供する学習デザインの知識と応用の例は、単なる情報提供に留まらず、視聴者が自分自身の学びに主体的に関与し、効果的な戦略を立てることを促すことに注力する。このような力を身につけることで、視聴者は変化の激しい環境においても適応し、成長し続けることが可能となる。また、生涯学習の重要性を理解し、主体的に学び続けることが、個々のキャリアや社会全体の発展に寄与することを強調する。</p> <p>【視聴対象者:】</p> <p>この番組は、あらゆる年齢層や職業に従事する人々を対象としている。特に、将来のキャリアやライフプランを真剣に考え、自らの学びに主体的に関与したいと考えている方々に向けられている。教育者や企業の研修担当者も、本番組を通じて学びの計画やデザインに関する知識を深めることができる。</p> <p>【経済性への配慮:】</p> <p>本番組で提供される学習デザインの知識と応用の例は普遍的なものであり、生涯にわたって利用可能である。そのため、一度学んだスキルや戦略は長期間にわたり価値を保ち、受講者が将来にわたって何度も活用できる。番組は学園のスタジオを使い、鈴木教授と平岡が図などを用いて進行するシンプルな仕立てであり、費用対効果は高い。</p>	

b. 内容・構成

この番組は、スタジオに武蔵野大学響学開発センター長の鈴木克明教授を迎え、平岡が進行及びきき手となって進行する。

鈴木教授は、日本教育工学会会長を務めるなど、教育工学分野において卓越した実績を有する。また、インストラクショナルデザインに関する多数の著作があり第一人者のひとりであると共に、生涯学習や学習デザインに関する豊富な知識と経験をお持ちである。

以下の構成と内容を想定している。

○導入 (3分):

- ・自分の学びとは: 自分の学びとは何かを確認する。
- ・学習を設計することの重要性: 学習を設計することがなぜ重要か、それが学びの成果にどのように影響するかについて触れる。
- ・学習は学習者が行うという考え方: 学習者が自ら学びを構築する重要性を強調し、番組の主題につなげる。

○学習目標を設計する (13分):

- ・学習目標とは: 学習目標の定義と、個々の学びにおいてそれらを確認する重要性。
- ・学習目標の種類: 知識、スキル、態度など、インストラクショナルデザインの学問領域で扱う学習目標の種類と特徴を紹介する。
- ・学習目標の明確化: 具体的で測定可能な学習目標の設定方法を説明する。
- ・学習目標の達成の評価方法: 学習目標の達成度の評価方法と、評価の重要性を説明する。

○学習内容を設計する (13分):

- ・学習目標を達成するために学ぶ: 学習目標との整合性を保ちながら学習内容を選定する方法。
- ・学習リソースを定める: 本やオンラインコース、放送大学の番組など、学習リソースの選定と活用方法。
- ・学習の内容と順序の決め方: 学習目標から前提となる学習目標を洗い出し、それを踏まえて学習の段階を理解し、順序を立てて学習内容を進める方法を説明する。

○学習環境と方法を整える (13分):

- ・学習スタイルと学習方法: 自分の学習スタイルを理解し、それに適した効果的な学習方法の選択。
学習環境を整える: ツール・コンテンツ・コミュニティの選定など、学習環境を整えるポイントを説明する。
- ・学習のマネジメント: 時間の管理、集中力の向上、進捗のモニタリングなど、学習を効果的に進めるための管理手法を説明する。

○まとめ (3分):

- ・学習目標・学習内容・学習環境と方法の設計: 各要素の重要性を繰り返し、それらが相互に連動して自己学習を設計することの重要性を強調。
- ・自分の学びを続けていく: 受講者に対し、学んだスキルと戦略を継続的に活用し、生涯学習を進めていく意識を促す。

c. 取材対象	ロケ取材 : 無
d. 出演者など (※キャリアアップ支援認証制度を希望する場合は、担当講師及び客員教員発令の有無も記載)	鈴木克明 (武蔵野大学響学開発センター 教授・センター長/熊本大学名誉教授) 平岡斉士 (放送大学情報コース・准教授)
6) 主体性の確保	企画提案者 平岡が鈴木克明先生と協議しながら構成及び台本の作成を行い、情報コースで教材構成、活用などの協力体制をとる。
7) 制作予定期間	契約締結日 ~ 令和7年2月28日
8) 演出上の特記事項	なし
9) 字幕制作希望	無

※出演者は現時点の予定であり、変更の可能性がある。
出演予定者に内容等問い合わせを行うことは厳禁とする。

制作する番組・本数・概算所要経費

担当プロデューサー、ディレクター
制作部 足立圭介、小川浩基

1) 番組名(グループ名) スペシャル講演	2) 個別番組タイトル スペシャル講演
3) 放送回数、期間、マルチ展開など 2年20回	4) 番組尺、本数 45分 × 1本
5) 内容等	
a. 目的・ねらい 放送大学が誇る講師陣によるスペシャル講演。退職される先生を中心に、シリーズとして制作・放送し、ベテラン教授陣により各分野の興味深い内容が聞けるシリーズとして好評を博している。 2023年度末に退任予定の学習所長1名の、アカデミックでかつ内容の濃い講演の模様を伝える。	
b. 内容・構成 ○「ジェンダー平等と日本の教育課題」(片岡洋子(放送大学千葉SC所長・2023年度末退任予定)SDGs 17の目標の5番目は「ジェンダー平等の実現」です。世界経済フォーラムのジェンダー格差(不平等)を示したランキングでは、日本はこの数年、120位前後を推移し、先進国では最低です。今、世界では「包括的性教育」のなかでジェンダー平等のための教育がおこなわれています。なぜジェンダー平等が地球の持続可能性にとって大事なのか、日本の教育に何が求められるのかについて考えます。	
c. 取材対象 ロケ取材 : 有	
d. 出演者など(※キャリアアップ支援認証制度を希望する場合は、担当講師及び客員教員発令の有無も記載) 片岡洋子(放送大学千葉学習センター所長・2023年度末退任予定)	
6) 主体性の確保 学習センターの所長経験者の講演を放送大学として番組にするので、主体性は確保されている。	
7) 制作予定期間	契約締結日 ~ 令和7年2月28日
9) 演出上の特記事項	なし
10) 字幕制作希望	無